



イボタノキ

83 編は端書きに **歌。賛歌。アサフの詩** とあります。**歌** と、**賛歌** の明確な違いは不明とのことです。アサフの詩は12編ありましたが、これが最後となります。

神よ、沈黙しないでください。黙していないでください。静まっていないでください。(2) 冒頭に、悲痛な叫びが切迫して繰り返されています。**敵が騒ぎ立っています(3)** と、戦争の危機です。敵国は11で、同盟もしています。地勢的には包囲されています。

彼らは言います／「あの民を国々の間から断とう。イスラエルの名が／再び思い起こされることのないように」と。彼らは心をひとつにして謀り／あなたに逆らって、同盟を結んでいます。(5) と、状況分析がなされ、イスラエルは四面楚歌となり、滅亡の危機です。周辺の国々と友好的関係を築いていない、むしろ敵国(下図参照)となって、敵国同士は同盟を結んで、イスラエルに対峙しています。

敵国	聖書による民族の説明
エドム	イサクの長男エサウを先祖とする。セイルの山地に住む。(創36:9)
イシュマエル	アブラハムと側女ハガルによる長男イシュマエルを先祖とする。シナイ半島に住む。(創37:25)
モアブ	アブラハムの甥ロトと姉娘による子を先祖とする。死海の東に住む。(創19:37)
ハガル	サウル王の時代にヨルダン川東の山地ギレアドに住む?(歴代上5:10)
ゲバル	ヘルモン山の麓からレバノン山東部に住む。(ヨシ13:5)
アンモン	アブラハムの甥ロトと妹娘による子を先祖とする。ヨルダン川の東に住む。(創19:38)
アマレク	モーセの斥候がカナン侵入で最初に争い、負けた敵。ネゲブの南に住む。(民14:45)
ペリシテ	エジプト人を先祖とし、地中海沿岸部に住む。(創10:14)
ティルス	ヨシュアにより北限の領土とされた地中海沿岸の港町。隣国シドンの住民が住む。(サム下5:11)
アッシリア	地上で最初の勇士と言われたニムロドを先祖とする。二ネベに住む。(創10:11)
ミディアン	アブラハムと後妻ケトラによる子を先祖とし、セイルの南に住む。(創25:2)

かつて士師たちが異民族と戦い、勝利した記憶を呼び覚まし、敵将の **シセラとヤビン** (デボラと彼女の友人ヤエルに倒されたカナン人の将軍と王) **オレブとゼエブ、ゼバとツァルムナ** (ギデオンに倒されたミディアン人の将軍たち、王たち) の名を挙げて **わたしの神よ、彼らを車の輪のように／風に巻かれる藁のようにしてください。火の手が林を焼くように／炎が山々をなめるように／あなたの嵐によって彼らを追い／あなたのつむじ風によって恐れさせてください(14)** と、祈り求めています。

この時期がいつであったかは不明です。かつては血を分けた兄弟であったはずが敵対し、イスラエルも分裂しました。最も敵対したのはペリシテで、253 回も聖書に登場しています。

詩人が憂いたことはやがて現実となりました。イスラエルは紀元前586年に滅亡し、「約束の地」と信じたカナンやパレスチナと呼ばれた地から断たれ、民は散らされ、2500 年近い時が流れました。

世界を巻き込んだ大戦、そして長期間の放浪、差別、迫害を受け、信じられないほどの虐殺の体験を経て、ユダヤ人は再び「約束の地」を求めて、かつての敵国だった民族が住んでいるカナン、パレスチナの地に帰還し、1948年に共和国を建設しました。ところが、時を経ても、相互に友好関係は生まれません。宗教、言語、文化の違いがむき出しになり、イスラエルは、経済力、軍事力の格差を見せつけて、植民地を増やし、住み分けを推し進め、分離壁によって、分断している箇所もあります。私はイスラエル旅行でそれを体験し、イスラエルの傲慢さに嫌悪を覚えたものです。

2021年5月10日、イスラエルとガザが戦闘を始めました。私はネットでガザ郊外やテルアビブでの爆撃の様子取材した映像の報道を見て、イスラエルの軍事力の優位性に圧倒されました。ガザ地区で泣きながら「フェアじゃない」と訴える子どもの映像も見ました。胸が張り裂けそうです。また、「海辺のノート」[今週の祈り :: 海辺のノート \(michinori-mano.net\)](https://michinori-mano.net)というブログを通じて、毎週木曜日の正午、東エルサレムのサビール・エキュメニカル解放神学センターの祈禱会でささげられている「祈りの波」を読んでいます。5月21日付によると

イスラムの断食月ラマダンの終盤、イスラエル警察がアル=アクサ・モスクの境内地を襲撃しました。何千人ものイスラム教徒が祈りを献げていました。この襲撃で、300人のパレスチナ人と、21人のイスラエルの警察官が負傷しました。ハマスはこの襲撃に応じて、ガザからイスラエルに何百発ものロケット弾を打ち込みました。イスラエルはガザに対する激しい空爆で報復しました。(報告)

イエス、平和の君よ、わたしたちは、今、エルサレムの人々の尊厳が冒されているのを見て、あなたに助けを求めます。闇と死の陰に住む人々をあなたの光で照らし、かれらの足を正義と平和の道に導いてください。主よ、御憐れみにより／わたしたちの祈りを聞き入れてください。(祈り)

この記事を読みました。サビールの祈りに私も心を合わせたいと願っています。20日にエジプトの仲介によって停戦調停がなされたと聞き、安堵しましたが、不安定な要因があります。

アサフは敵が **彼らは言います／「神の住まいを我らのものにしよう」と(13)** と言いますが、カナンに侵入してきたのはイスラエルであったことを覚えておくべきでしょう。憎み合い、殺し合いを続けている限り **彼ら** とは敵だけではなくイスラエルをも指すこととなります。相互に、平和に生きてこそ、**彼らが永久に恥じ、恐れ／嘲りを受けて、滅びますように。彼らが悟りますように／あなたの御名は主／ただひとり／全地を超えて、いと高き神であることを。(18)** との祈りが相互に唱えられるのではないのでしょうか。すべての民族は平和を願っています。アサフと同じように、祈っても祈っても、神の答えが聞こえない、神は沈黙されていると思う私たちは、実は耳を塞いで、「聞きたいことだけを聞く」ものになっているのかもしれない。謙虚に、自らの身に置き換えて、苦しみを頂きながら、祈り続けられるようになりたいものです。

『讚美歌 21』には関連する讚美歌はありませんが、私は 562「諸民族、諸国、世界の主よ」を賛美したいです。 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-10-21>

ジュネーブ詩編歌は、前半はリコーダーとオルガンの合奏で、穏やかに静かに祈る雰囲気が漂います。後半はクルムホルンが加わり、多様性が出て、厚み加わる感じで演奏されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=XtE1qNKvYd8&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=83>